

視点1：全教職員で取組を推進するための組織運営

《取組内容》

R4【課題は「表現力」】

- ・全学年に共通している課題は「表現力」であることを共有し、これまでの校内研究もふまえて、改善する手立てを提案。
→▲教科の特性や生徒の実態、教師の力量など様々な違いをふまえると、画一的な手立てでは目標達成が困難。

R5【各々でできるアプローチを！】

- ・課題として意識することを「表現力」というキーワードに絞り、教科の特性、生徒の実態をふまえて、各教師がそれぞれの立場でできることを考え、実践する。
(短期的サイクル②日常への落とし込み)
→○全教師が同じ目標に向かって日々の授業改善に取り組むことができた。
→○結果的に「表現力」について様々な角度からアプローチすることになり、成果が見えてきた。

《提言》

手立てではなく
課題を共有する。

課題解決に向けて、
教科の特性や
生徒の実態をふまえ
教科毎に「表現力」
を具体的に捉え、教
科経営案に明記し、
授業実践に生かす。

研究の主体は
教師一人ひとりの
日々の授業改善

視点2：学年や教科を越えた組織的な授業改善の推進

《取組内容》

R4【道徳科の財産-話し合いを活用】

- ・道徳科において、副担任も含めたローテーション授業を行ってきた取組を生かし、話し合いから聞き合いへ、そして話し合いへと発展させることで、表現力の向上を目指す。
→▲すべての教科で日常的に取り入れるのは困難。

R5【汎用性のある前向きな取組】

- ・研究授業や互見授業では、授業の構成だけでなく、生徒の発言に対する切り返し方や間のとり方など、指導案では見えない小さな工夫を見つけることを視点とする。
(短期的サイクル①教科部会や校内研究会)
→○教科が異なっても、表現力の向上につながる手立てを学び合うことができた。

【「表現力」を教科経営案に記載、授業改善へ】

- ・各教科における「表現力」について教科経営案に記載し共有。
→○学力調査に関わる教科に限らず、すべての教科において「表現力」を育てる場面があると共通理解できたことで、全教師が「表現力」の向上を意識して授業改善に取り組むことができた。

《提言》

全校の課題について
教科や学年で
目指す姿を具体的に
考えて共有する。
(教科経営案への記載)

他の教科の授業から
学び合うため、声の
かけ方や
間のとり方など
生徒との関わり方を
視点にする。

互見授業や研究会は
生きた手立てを
学び合う場

視点3：調査結果の積極的活用

《取組内容》

R4【教科横断で結果分析・課題把握】（全国学調・県学調）

- ・ 県学調、全国学調の結果を分析し、課題を把握。
→ ▲学調の結果から見える課題は学調に関わる教科だけの問題と捉えている教師が多い。

分析結果を全体で共有する前に、組織全体の課題を絞るため、研究部で協議を重ねた。

R5【アンケート調査実施による意識強化】

- ・ 学調の質問紙から「表現力」に関わる1項目と、いわて県民計画アクションプランの指標に関わる5項目と計6項目について、定期的にアンケート調査を行う。
→ ○教師と生徒に同じ内容のアンケート調査をすることで、意識のずれを確認でき、改善することができる。
→ ○定期的に同じアンケート項目を目にすることで、その内容を意識して取り組むことができる。

《提言》

各調査結果から
全校共通の**課題**は
研究部で見つけ
キーワードに絞って
全体に提案する。

定期的なアンケート
を行うことで
教師も生徒も
課題を**意識**する。

常に課題を意識して
ワークシートや
振り返りなど
日々の記録から
Check & Action